

ラテン語 A (2)

15 定期試験

16 フィードバック (Web上にて行う)

なお、授業時の手応えに応じて進度を変更する可能性がある。

毎回、各課の練習問題のラテン語和訳をしてきてもらうことになるが、その練習問題の主眼となる箇所について小課題をあわせて課す。この小課題は毎回提出してもらう。

ラテン語の発音は、日本人にとって極めて容易なので、音読練習を積極的に行ってラテン語を頭に定着させていくことが薦められる。

この教科書『新ラテン文法』は、詳細さでは随一であるが、レイアウト面で見づらく、説明も難解なものになっている箇所がいくつかある。その点を補うものとして、授業では分かりやすい解説プリントと、分かりやすい名詞・動詞の変化表を配布する。

[履修要件]

後期開講のラテン語Bも受講することが望ましい。
一年間どっぴりとラテン語に浸るのも、また密やかな楽しみが見出せるものである。

[成績評価の方法・観点]

基本的に、定期試験の結果で判断する。
毎回提出してもらう小課題は、定期試験での失点を補うものである。

[教科書]

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』(東洋出版) ISBN:978-4809643019

[参考書等]

(参考書)

山下太郎『しっかり学ぶ初級ラテン語』(ベレ出版) ISBN:978-4860643669

水谷智洋『改定版 羅和辞典』(研究社) ISBN:978-4767490250

教科書『新ラテン文法』は、伝統的に日本のラテン語教育で用いられてきた。その意味では、日本におけるラテン語教科書の古典であるともいえる。それゆえこの教科書を一冊学び終えれば、相当の達成感を得られることであろう。

参考書の『しっかり学ぶ初級ラテン語』はラテン語独習に極めて適している。正誤表が著者のホームページにあるので確認しておくこと。

この授業でラテン語辞典はなくても受講は可能であるが、手許にあった方が心強い。また身近に目にしたラテン語の意味を調べる際にも便利である。

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生は毎回、習った課の練習問題のラテン語文を和訳をしてくること。
この際、ラテン語文の個々の単語の情報、すなわち名詞・形容詞ならば性・数・格、動詞ならば法・時称・相・人称/数を、必ずメモするようにしなければならない。
このような作業がしやすいように、練習問題については、行間を大幅にとったワークブック形式のものを別途配布する。

ラテン語 A (3)へ続く↓↓↓

ラテン語 A (3)

【その他（オフィスアワー等）】

このラテン語A・Bは、人文・社会科学系科目群であるが、外国語科目群と同様に「語学を身につける」という強い意識をもって臨むことが肝要である。

また予習・復習に大幅に時間を使うことになると思われる。

しかしその努力の先には、輝かしいものが待ち受けているのもまた確かである。